

環境部会

親子であつまれ 自然あそび塾パート

園5 - 環 田波 久紀夫

本年度の(財)長寿社会開発センターの助成金によるイベントのトップを切って「親子であつまれ自然遊び塾」パートが「昆虫採集と標本作り」をテーマとして、2003年8月23日(土)、しあわせの村野外活動センター「あおぞら」で“わ”本部と環境部会が共催して行なわれた。18家族46名の応募があったが暑さを心配して欠席する家族もあった。また子供には常に「命の尊さ」を教育しているので、標本作りの際に昆虫を殺すと言う行為は許されないとして、参加を取り止めた家族もあった。

今回はビオトープグループが主体となって準備を進めてきたが、冷夏で昆虫にも影響があるのではないかと心配して、前日にはビオトープ周辺の樹木に人口樹液を塗ったり、腐肉を紙コップに入れて地中に置いたりして、いろいろと昆虫を呼び寄せする仕掛けをした。

当日は久しぶりの暑い日で、熱中症を心配するほどのカンカン照りであった。いろいろな仕掛けの効果もあって、トンボ、チョウチヨウ、せみ、バッタなど数多くの種類の昆虫を採取することができた。

子供たちはもちろんのこと、親たちも夢中になって虫取り網を振り回し、追い掛け、どちらが主役か分からないくらい飛び回り、1時間ほどで虫カゴ一杯になるくらいに採取することができた。

一方、去年秋の自然あそび塾で、親子が蒔いたドングリもかなり成長しており、子供たちも驚いたり喜んでいたりしていた。

午前中の昆虫採集は無事に終り、親子そろっての昼食を楽しんだ後、簡単な「虫カゴ作り」をした。その

作り方は、1リットル入りのポリビンの下から約10cmのところをハサミで切り離して、下の部分を利用する。不要になったパンストを16cm程度の長さ切る。ポリビンの開放部に切ったパンストを被せる。パンストとポリビンをテープで留める。パンストの上部は昆虫の出し入れ口になり、輪ゴムか紐で縛る。ポリビンの上部の2ヶ所に穴をあけ、紐か針金を通して吊下げられるようにする。以上で完成である。簡単で有用な虫カゴは夏休みの工作の宿題にもなり、ワイワイ、ガヤガヤと親子共同作業が30分ほど続いた。

午後は三田市「人と自然の博物館」の大谷剛先生の指導による標本作りである。

まず、先生から一通りの標本作りの説明を受けた後、実技に移った。

発泡スチロール板の上に昆虫を置き、針の刺し方、刺す場所、待針を使って羽や脚の広げ方など個々に実技指導して頂き子供たちもお父さん、お母さん方も初めてのようで、



真剣に作業していた。

少し難しかったけれども、大谷先生の懇切丁寧な実技指導によって、1時間程度で一応標本ができ上がり、皆ホッとしたようであった。

ある子供から「僕も昆虫博士になりたいのですがどうすればよいですか?」と言う質問があった。先生の答えは「まず昆虫の名前をたくさん覚えてください」だった。その子は苦笑していた。もう少し違った答えを期待していたのだろうか。

一日を振り返っての感想では、親子共々、虫取りは楽しかったし、正しい標本の作り方を教えてもらって、とても嬉しかったので、帰ってから、もう一度作ってみたい、

標本の作り方は教えてもらう機会も少ないし、難しかったけれども、とても楽しく役に立った、などだった。

このイベントを通じて我々も童心に帰って三世代の交流で親子と一緒に遊び、一緒に学習・体験したことは、「自然あそび塾」のあり方の原点でもあり、計画が当を得ていたものであったことを心から嬉しく思った。

スタッフ反省会でも、このイベントは、改良するところは幾つかあるが、

来年もぜひ実施すべきであると言う意見が大多数であった。

最後にイベントにご協力頂いたスタッフの方々、環境部会のビオトープグループの皆さん、その他多くの方々に感謝申し上げます。

